

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 2007年8月1日
 調査実施の時間 開始10時00分 ~ 終了15時20分
 訪問先事業所名 グループホームふぬいの里
 (都道府県) 鹿児島県
 評価調査員の氏名 氏名: 藤田泰洋 氏名: 富山佳郎

事業所側対応者
 職名 施設長 事務長
 氏名 碓山タツ子 碓山泰幸
 ヒアリングを行った職員 (4)名

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

作成日 2007年8月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4678800154
法人名	株式会社 地域ケア ささえ愛
事業所名	グループホーム ふぬいの里
所在地	鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木134番地 (電話) 0997 - 55 - 4888
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田二丁目48-13
訪問調査日	平成19年8月1日

【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年4月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11人, 非常勤 5人, 常勤換算	12.1人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	100 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 86.3歳	最低	77歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人奎英会むかいクリニック、笠利町国民健康保険診療所、水間歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に開かれたホームで、地域住民の活動に支えられ、一方、地域の要支援状態の方々をホームの自主活動で支えるなど地域と密着した活動を展開している。新たに開始した通所介護サービスにより、地域との交流が更に拡大し、入居者にも活性化の効果が出てきている。ホーム内は島の生活風土のリズムである三拍子の島唄の音律が流れ、くつろぎの気持ちや、生活へのメリハリをつけている。サービスの質の向上に運営者・職員共に熱心で、ホーム側では資格取得のための奨学金制度を設け、職員は研修や資格取得に取り組み、サービスに対する自己評価にも厳しい視点で臨んでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題を良く吟味し、入居者の力量に応じた金銭の取り扱いについての支援をしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者を始め職員は自己評価・外部評価の意義を理解し、自己評価にできるだけ多くの職員が参加し、評価を通じてケアの実態を確認するとともに、質の向上に生かそうとしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議メンバーも多彩で、地域密着型サービス、ホームでの看取り、入居判定のあり方、自己評価の内容等グループホームを取り巻く各面からの意見が出されている。ホームとして出された意見の実現に取り組みをしている。農繁期の運営推進会議については、定期的開催ができるような工夫が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 「ふぬいの里だより」のほかに、入居者個々の家族に毎月「〇〇様の 月のご様子」という報告書を送り、入居者の様子だけでなくケアの状況まで細やかに伝えている。また、家族の来訪時や、月次報告書を送った後の電話連絡時や、家族会の開催時などに意見・要望などをできるだけ多く汲み上げるようにしているほか、第三者委員も設けシステム面も整え、吸い上げた意見等はケア会議で反映するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) グループホームに小学生や地域の人が気軽に訪ねて来て、ボランティア活動や野菜の提供など日常的な触れ合いがある。六月灯や八月踊りなど地域の行事に入居者が出かけた。ホームの催しに地域の人に参加したり相互交流が活発である。ホーム職員が地域への認知症対策の普及啓発活動をするなど地域と密着した交流が展開されている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「生活主義、五感主義、より良く生きる」を掲げている。地域密着型サービスとしての理念を導入に向けて検討中である。	○	地域密着型サービスを前提とした理念の確立が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有のために、月例会の折に全員で唱和し確認している。管理者からは、日々のケア活動・行動は常に理念を念頭に実践ができるように指導している。職員もこの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームに小学生や地域の人が気軽に訪ねて来て、ボランティア活動や野菜の提供など日常的な触れ合いがある。六月灯や八月踊りなど地域の行事に入居者が出かけたり、ホームの催しに地域の人に参加したり相互交流が活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者を始め職員は自己評価・外部評価の意義を理解し、自己評価もできるだけ多くの職員が参加し、評価を通じてケアの実態を確認するとともに、質の向上に活かそうとしている。		自己評価・外部評価項目の意味・内容を、すべての職員が確認し、地域密着型サービスとして目指すべきグループホーム像の把握と取り組みが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーも多彩で、地域密着型サービス、ホームでの看取り、入居判定のあり方、自己評価の内容等グループホームを取り巻く各面からの意見が出されている。ホームとして出された意見の実現に取り組んでいる。		農繁期の開催には、参加対象者の状況を考えて、延期となっているが、メンバーの拡充や代理出席など工夫し、定期的開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	一町一グループホームということもあり、緊密な連携のもとで、認知症啓発活動にグループホームから講師を派遣したり、行政側から介護サービス関連機関の連携推進を図るなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ふぬいの里だより」のほかに入居者個々の家族に毎月「〇〇様の 月のご様子」という報告書を送り、入居者の様子だけでなくケアの状況まで細やかに伝えている。ホームで金銭管理をしている入居者はいない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や、月次報告書を送った後の電話連絡時、家族会の開催時などに意見・要望などをできるだけ多く汲み上げるようにしている。また、第三者委員も設けシステム面も整えている。出された声はケア会議などで協議するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間に退職者は1名で職員は安定的に勤務しており、馴染みの関係の中で入居者の行動・表情は穏やかである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てるために、奨学金制度を設け、学歴や介護・自動車運転資格取得の支援をしている。各種研修には積極的に派遣している。日常業務の中でも運営者からの研修ももたれている。職員も向上心が強く来年3月には定時制高校を3人が卒業することになっている。		ホームの研修計画をたて、目的的な推進を図れば更に効果が見込める。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区グループホーム連絡協議会を結成する旗振り役を努め、同協議会主催の研修会に積極的に参加している。また、グループホーム間の交換研修も行い、他ホームから学びサービスの質の向上に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイケアへの通所や職員による家庭訪問、食事の宅配、体験入居、見学など多様な関わりの中で、徐々に馴染みながらサービス利用に至るように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	五感主義の理念の下で、入居者のできることを見つけ介護に活かすように取り組んでいる。スタッフは食事の下ごしらえの場など日常生活の中で、入居者から生活の知恵を学んだりして共に支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向を把握するとともに、本人の希望・要求・表情や素振り、しぐさなどから、気持ちを受け止めた支援をしている。また、職員の共通認識とするために、ケア会議にかけて、本人本位のケアをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や本人の意向を踏まえ、アセスメントを元に介護計画を作成している。介護計画は介護支援専門員が中心となって作成している。	○	入居者がその人らしく生活できるように、介護にかかわる家族やスタッフの意見が反映される介護計画作成の場の設定が求められる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を3ヶ月、6ヶ月毎に評価し、見直しをしている。また、状況変化時には即介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊支援、外出支援、通院・入院介助、食事の宅配、医療連携など本人や家族の状況に合わせた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を利用するように取り組んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ふぬいの里看取りに関する指針」を定め、看取りをしている。認知症に深い理解を示す内科医の協力の下、24時間連携により最近も看取りをした。入居当初に、重度化や看取りに関するグループホームの方針を口頭で家族等に説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の支援など個人の誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。就業規則・就業契約書にも規定し個人情報の保護に取り組み、運営者からもプライバシー保護に指導をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴など日常の場で個々の状況や希望や意向に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方から提供された野菜や、自分たちで作加工した食材などを使用し、伝統的な調理方法や献立で、それぞれのできる役割をもち、職員も共に食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は原則として決めているが、入居者の希望により、支援をしている。入浴嫌いの人にも、さりげない誘導により入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、配膳、後片付け、新聞の読み聞かせ、農作業等入居者の力を引き出し、力量を発揮できるように計らっている。役割に取り組みれたときには感謝の気持ちを伝え、自信と誇りを持つように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ホーム近在の自宅への日帰り散歩など入居者の希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は鍵をかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・避難訓練は夜間想定も含め2回実施している。消火機器の点検、停電時の発電機の準備、保存食の備蓄など整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状況に応じた栄養摂取量や栄養バランスなど管理栄養士の指導を受けながら支援している。摂取状況は介護記録に記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、音量、光、臭気など不快感を与えないような調整がなされ、ソファーや椅子、テーブルなどが配されおり、それぞれの入居者が居心地良く過ごせる工夫がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室にはそれぞれ馴染みの家具を持ち込んでもらうように依頼している。位牌や仏壇、孫の写真などで部屋作りをしており、その人の生活歴が滲み出る支援となっている。		